

海洋島大東諸島の生態系の解明と保全に関する研究

大東諸島生物相研究グループ

大東諸島生物相研究グループは、琉球諸島唯一の海洋島群である大東諸島の生態系の保全を目的として結成された研究者のグループです。大東諸島の生態系のモニタリングや調査を継続することで、保全の基盤となる各固有生物の基礎生態や生息状況の情報収集を行い、地元や行政とも協力した実際の保全活動へつなげています。

【活動背景】

大東諸島は地史の中で一度も大陸と陸続きになったことのない海洋島です。そのため、ユニークな生態系を有します。しかしながら、入植当時の大規模開発の影響で絶滅の危機に瀕している固有種・固有亜種が多く存在します。生態系維持のために優占種であるビロウと、ビロウを利用する生物の継続したモニタリングが求められています。

【活動目的】

今回の活動は、南大東島および北大東島の生物相のモニタリングを行い、保全上の問題点を整理し、各行政機関に対策を提言するための基礎資料を得ることが目的です。

【団体からのメッセージ】

大東諸島は琉球諸島の中でもあまり注目されてこなかった島々だと思います。それは120年あまり前の入植時に島の自然環境が大きく変わり、固有生物は残っていないと考えられたからだと思います。しかし、海洋島という特殊な成り立ちの大東諸島には島独特の「幕林」という林を利用し、他ではみられない「だいとう」の名前のついた動物たちがくらしています。このユニークな自然を残していきたいと思います。



【助成金の用途・活動結果】

財団からの助成金は、調査費用や大東諸島への交通費に充てました。活動の結果、ビロウの秋の開花はダイトウオオコウモリの補填的餌種として機能していることが判明しました。また、ビロウをねぐらとして高頻度で利用しており、ビロウの重要性が確認されました。アリ類の調査では、観察された種のうち外来種が64%占め、在来種に影響を与えていることが分かりました。近年侵入したタイワンゴマダラカミキリの調査では、被害植物の特定、および加害の確認を行いました。今後もモニタリングを続け、駆除に向けた取り組みを開始する必要があります。